

陸上運動部部便り

2005年5月号

関東インカレ・国公立戦

目次

1 関東インカレ

1.1 監督の言葉

関東学生 監督 八田 秀雄

関東インカレは5月8.13.14.15日に国立競技場で行われました。気温が低く、内容のなさもあって真冬のように感じられるインカレでした。今年から大学院の選手が学部チームで出ることができなくなることもあり、あまり得点を期待できない状況でしたが、エントリー人数は2部で一番多い25名でした。しかし結果はわずか4点。私が関わって28回の中で、最低の20点を大きく下回るワーストでした。得点したのは、幅の竹内7位。合田の円盤8位。佐野の三段8位のみ。9位に幅の相川と、十種の持永。米田の100も9位相当でした。得点は取れませんが、出た選手は1500mの新井が3分台。1年の尾崎が110Hで15.56など、それなりに力は出しています。一方でこの大会に向けて練習してきて、大きく記録を伸ばすといった選手が見あたりません。また春からそうした盛り上げを作りこの大会に合わせいく雰囲気を感じられなかったことが、一番の問題と感じられます。大学院チームは競歩の春木が優勝して8点。大学院チームが学部で勝ったのも初めてです。女子は本間が棒3.00で13位。院生の目黒も800mで2.16.14と好走しました。2部校に1部校を出た大学院生が出てくるだけでなく、全体にレベルがかなり上がったのは事実です。それには少子化で大学の定員確保に重点が置かれるようになり、推薦で学生をとりやすくなったこともあるようです。一方で入れ替わりが早いのが大学ですから、これから再出発していけばよいという気はします。1年

で期待できるのは何人かいるし、今回出られなかったですが松本を中心とする2年の長距離もよいので、数年かけてまた上位争いに加わっていけるチームを作っていくのは可能と思っはいます。ただ本当にこのまま沈みっぱなしではないかという不安も消えません。どうか皆様のご支援をお願いします。

1.2 主将の言葉

主将 米田武史

関東インカレは、正直ふがない結果に終わってしまいました。各種目エースが負傷したりで万全な状態ではなかったものの、調整ミスとっておわることでないような結果だったと思います。ただ、よくやった点、というのもそれなりにあり、持永が十種競技で自己ベストをだしたり、新入生の尾崎が自己ベストで準決勝進出したり、なにより、例年以上に応援が部員一同で雰囲気よく頑張っていたと思います。結果は結果として、糧にすべく、そして七大戦・京大戦へと結び付けられるように部員で心を固めた試合でありました。最後に、特に直接応援に来ていただいたOBOGの方々、ありがとうございます。他のOBOGの方々にも来ていただけるような試合をしていきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 向田恵

今年の関カレには女子は2年本間、M1目黒の2名の選手が出場いたしました。2人とも入賞こそありませんでしたがそれぞれ自己ベストに近い好記録を出し、大舞台で自分の力を存分に出し切ることができたように思います。その1週間

後に行われた国公立戦では、女子は出場選手が6人という少人数ながらも全員が入賞するという大健闘を見せ、総合2位という去年を上回る結果を残しました。この結果は選手に自信を持たせ、七大戦に向けての更なるやる気を起こさせる良い弾みになったと思います。相変わらず女子は選手不足という深刻な悩みを抱えています。選手は皆試合に対する高い意識を持っており、今後の対校戦においても良い結果がお知らせできるのではないかと思います。最後になりましたが、関カレ期間中応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、本当にありがとうございました。今後とも熱いご声援をよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック1日目(5/8)

12:00 2部男子4×100mR 予選

3組2レーンに藤本(2年) - 瀧山(3年) - 米田(4年) - 磯部(3年)のオーダーで出場。1走藤本は好スタートを切るが、なれない曲路でレーンの外側を走り、外側レーンの選手に遅れをとってしまった。2走瀧山へのバトンパスは詰まり、瀧山はスピードにのることができなかった。その結果、瀧山は終盤まで伸びが出ず3走米田へのバトンパスも間延びしてしまう。オーバーゾーンぎりぎり減速しつつパス。米田は奮闘するも前との差は詰まらず、5着前後で4走磯部へ。走り出しのタイミングは正確であった。しかし関カレという大舞台で普段以上の好走となった磯部のスタートは結果として早い飛び出しとなってしまい、オーバーゾーンで失格となってしまった。バトンワークの未熟さが浮き彫りとなったレースであった。予選通過が43秒台であっただけに痛恨の結果と言えるだろう。記録は無し。

15:00 2部男子1500m 予選

新井(3年)の出場。昨年転倒した借りを返すべく、気合十分のスタートを見せ、先頭に踊り出る。そのまま400mを61秒で通過。そこから先頭を譲ろうとし、一気にペースを落とすと、激しい位置取り争いが展開さ

れる。新井は5番手辺りで800mを通過するものの、周りの激しい当たりには押され徐々に順位を下げてしまう。残り300mで切り替えて最後の勝負に出るも、先頭集団のペースも上がり差を詰めるには至らず、残り100mでは更に差を空けられ3'59"59の7着でフィニッシュ。厳しいレース展開で4分を切れたことに成長を感じられたが、まだ上位との実力差があることを感じさせるレースであった。来年の更なる飛躍が期待される。

16:00 2部男子10000mW 決勝

学部チームから深尾(3年)、菅野(2年)、大学院チームから春木(M1)の出場。気温は高くならず、絶好の気象条件の下、1部校と2部校が同時にスタートを切った。

2部校では実績上位の春木だが、この日は貧血の影響が懸念されていた。しかし、周囲の心配をよそに、レース前半から1部校の集団に取り付くと着実に順位を上げていき、2000mでは早くも2部校の2位に上がる。その後は集団がばらけ一人になるも、正確に1キロ4分30秒のペースを刻んで3位以下を引き離してゆく。一方、200mほど前を進む先頭の選手は歩型が安定せず、レース中盤に立て続けに警告を受ける。そして、7000mでついに失格。この時点で春木の優勝が確定的となる。その後も、春木は冷静にセーフティーリードを守り切り、45'10"25の1位でゴール。自身3度目の関東インカレ表彰台は、うれしい初優勝となった。

2年連続の出場となる深尾と、1週間前に滑り込みで標準を突破した菅野は、ともに歩型に不安は少ないだけに、後方の争いを制すれば入賞が見えてくる。2人とも、序盤は最後方で4人の集団を形成。しかし、2000mで深尾が、ついで菅野がこぼれてしまい、その後は苦しい一人旅となる。深尾は4000mで菅野を逆転したものの、さらに順位を上げるには至らず52'26"54の11位でゴール。最後方の菅野は、前に離された後もなんとか1キロ5分20秒前後のラップで粘って、52'59"19の12位でゴール。

学部の2人は、得点もベスト更新もかなわなかったが、本番で標準を切ったので来年

の出場権を得ており、最低限の結果は残した。1部2部あわせて14人が失格する中、無警告で乗り切った点も収穫である。まだ先のある選手たちなので、この経験を生かしてほしい。

17:00 2部男子4×400mR 予選

1組5レーンに田中佑貴(4年) - 沖田(2年) - 今村(2年) - 小澤(2年)のオーダーで出場。1走田中は前半は好走であったが、300m付近から勢いを持続できずに5着でバトンパス。2走沖田はいつもの伸びが見られず6着に順位を落とすが、前を走る選手のアクシデントで5着に上がる。3走今村は前半から勢いをつけて中盤まで粘りのある走りを見せるがラストの直線で失速し、5着でバトンをつなぐ。4走小澤は中盤以降失速してしまう。後続に差を詰められながら粘るも走りに伸びが出ず、順位を1つ落とし6着でのゴールとなり予選通過はならなかった。記録は3'24"51

トラック2日目(5/13)

10:25 2部男子100m 予選

1組4レーンに米田(4年)の出場。先の東京選手権では体幹のブレや接地などが気になった米田だが鋭いスタートでリードを奪い、並んだ集団の中から抜け出す。中盤ではやや伸びを欠いたが最後は落ち着いた走りでもとめ、2着でゴール。記録は10"80(+1.8)

14:15 2部男子100m 準決勝

2組3レーンに米田(4年)の出場。無難にスタートするが中盤に差し掛かったところで脚に違和感が起こる。このため本来のパフォーマンスを出し切ることが出来ず、終盤粘るもあと一つ届かないままゴールとなった。惜しくも5着に終わり決勝進出はならず。調子自体は悪くなっただけにこの結果は悔やまれるものとなった。記録は10"74(+2.4)

トラック3日目(5/14)

9:50 2部男子110mH 予選

8レーン1組での尾崎(1年)のスタート。スタートは順調。序盤は先頭を走る。中盤はまだ入学したてということで本調子でなかったのか4着まで後退するも、そのまま粘りゴール。自己ベスト15"56を出すという勝負強さを見せる。見事準決勝に駒を進めた。

4組3レーンに田中啓(5年)が出場。スタートから前半にかけて若干の遅れをとるが、4~5台目で伸び3着に浮上する。その後、7台目のハードルに足を引っ掛け他選手に詰め寄せられるものの振り切り、3着15"80でゴール。準決勝に進出した。

12:10 2部男子800m 予選

1組目1レーンに村井(4年)の出場。村井は前半から積極的に飛ばし4番手につけ、一週間前の風邪の影響を感じさせない入り。400mを54"6で通過するも、このあたりから徐々に前の3人との間が開き始める。結局ラスト100mで1人に抜かれ、1'57"82の5着でゴール。やはり調整面で課題が残る結果となってしまった。

3組目4レーンに石井(M2)が出場。石井は今回が最後の関カレである。スタートは集団の後方につけ、前をうかがう。ホームストレートで前に上がり、400mを54"5で通過。そのまま前の3人に食いついていくも、ラスト200mで失速。1'59"97の7着でゴールした。自己ベストからは程遠い結果となってしまったが、本人にとって満足はいくらランとなった。

12:30 女子800m 予選

1組目4レーンに目黒(M1)の出場。先頭3人を意識し200mを4番手30"9で通過、その後もハイペースで400mを65"11で通過し先頭の3人に追いつく。しかし、さらにペースをあげる先頭から離れ、600mの通過時では先頭から30mほど遅れ、4番手1'39"94で通過。さらに1人に抜かれるが、最後の直線でスパートして抜き返し、2'16"14の4着でゴール。自分らしいレースをして大学ベストを出した。今後の更なる成長と活躍を期待したい。

14:25 2部男子110mH 準決勝

1組8レーンでの田中啓(5年)のスタート。スタートで差が付く。そして、その差を保ちつつ中盤へ。中盤では安定したハードリングで、懸命に差を縮めようとするもその差は縮まらず、10台目で足を引っ掛けたこともあり、惜しくも6着でゴール。タイムは15"69。このとき風は+0.7mであった。

2組1レーンでの尾崎のスタート。フライングがあったため、やや集中力を欠いたか出遅れるも、1台目のハードルを跳んでから追い上げを見せる。しかし、本日2レース目ということで疲れが見え、抜き足が前に出なくなり、終盤失速し6着でゴールした。準決勝進出はならなかったが、今後のことを考えると非常に期待の持てる走りだった。タイムは15"84。このとき風は-1.8mであった。

フィールド1日目(5/8)**10:00 2部男子ハンマー投決勝**

岡野(D3)、小笠原(M2)の出場。直前に標準を切った岡野は、調子が良い。一投目はファウルだったものの、二投目、三投目と記録を伸ばす。結果は35m28でエイトもれだったが、今年は18位で最下位ではなかった。小笠原は昨年9位の雪辱を果たすべく、気合いが入っていた。緊張の中、一投目に41m94を投げて安心してしまったのか、その後は41m53、41m12と、等差数列的に記録を下げてしまう。結局終わってみれば今年も9位だった。

12:00 女子棒高跳決勝

本間(2年)の出場。向い風の中、2m70から試技を開始し、10cmずつバーを上げていく。3m00も3回目にクリア。しかし、3m10は失敗し13位に終わる。今シーズンベストの記録ではあるが、3m30の日本インカレ標準をきることはできなかった。

12:00 2部男子走幅跳決勝

学部チームからは竹内(3年)、相川(3年)、院生チームからは吉岡(M1)の出場。竹内は

助走が走れてはいたが、不安定な風の影響もあり助走が安定せず1跳目は踏み切り板の手前で踏み切ってしまい6m84。3跳目に7mを大きく超えるジャンプを見せたが、惜しくもファール。ベストエイト進出後は、記録を伸ばせず結果6m84で7位であった。相川はスピードのある助走でそのまま踏み切り、1跳目に6m78を跳び、2跳目終了時点で8番以内につけるが、慶大の選手に6m78を跳ばれ、セカンド記録の差で9位に後退。勝負がかかった3跳目は、距離は出たが惜しくもファールとなり、結果セカンド記録の差で9位という不運な結果に終わった。吉岡は、1週間前の東京選手権でも好調な跳躍を見せており、その勢いでの跳躍が期待された。2跳目に6m72を跳ぶが、3跳目は惜しくもファール。結果、ベストエイトまでもう少しの10位であった。

14:30 2部男子円盤跳決勝

岡野(D3)、合田(3年)、庄司(2年)の出場。岡野は3投とも右にそれてしまい、円盤が有効範囲に落ちずに記録無し。29位に終わる。庄司は公式練習から動きが良く、1投目に28m79とまずまずの記録を残す。さらに記録を伸ばそうとするが、技術面の不安定さが目立ち、残りの2投は崩れてしまい28位となる。合田は長く怪我をしていたせいでうまく調整ができなかったにもかかわらず、安定した投げで順調に記録を伸ばし、3投目に35m72を投げベスト8に残る。4投目以降さらに上位を狙うものの、うまく投げることができずに伸びず、8位であった。

フィールド2日目(5/13)**11:00 2部男子やり投決勝**

岡野(M3)、関原(2年)の出場。岡野は院生チームから4回目の関カレ出場となり、今回が最後の出場となる。専門種目のやり投で、大学陸上の集大成となる投擲を見せたいところである。その岡野の1投目は余裕を持った助走で無難に投擲し、ベストには及ばないものの51m61の記録を残した。しかし、2投目はあまり伸びず自らファールに

し、勝負をかけた3投目でも49m56の投擲しかできなかった。結局1投目の記録によって15位となった。院生チームで10点獲得するという目標の中、得点が期待されていた種目だけに、残念な結果であった。関原は、十種競技での標準突破を狙っていたが、シーズン初めに足首を傷めて今回は十種競技を断念、やり投で初の関カレ出場を果たした。このような苦しい状況の中調子を合わせてきた関原は、1投目47m50となかなかの投擲を見せ、怪我からの復帰を周囲にアピールした。2投目は44m台の投擲で自らファールにしたが、3投目には47m05と安定した投擲をすることができた。しかし1投目の記録は越えられず、22位で試合を終えた。夏以降、怪我が完治したときの活躍が楽しみである。

15:30 2部男子三段跳

冷たく気紛れな風が吹く中、佐野(3年)の出場。最初の試技者である佐野は、1跳目から攻めの姿勢で14m12を跳ぶ。その後は14m09、ファールと記録を伸ばせないが、14m前後をマークする他の選手たちを押さえて、見事に8番手でベストエイト入りを果たす。入賞を決めてからも佐野はスピード感溢れる助走で積極的に記録を伸ばしにかかるも、4跳目13m79、5跳目13m84、6跳目14m04と記録を伸ばすことはできず、8位で競技終了。貴重な1点を獲得した。

フィールド4日目(5/15)

9:30 2部男子棒高跳決勝

大谷(1年)の出場。大谷は大学での初試合であった。試技は4m00から開始された。3跳とも助走はしっかりと走っていたものの、全て突っ込み気味の跳躍になってしまい、4m00をクリアすることができなかった。結果は記録無しに終わった。

10:00 2部男子砲丸投決勝

岡野(D3)、小林(2年)の出場。岡野は1投目に11m29を投げますがスタートを切るが、それ以降投げが崩れて結局記録11m29

でエイトもれの18位であった。小林は今シーズンあまり調子がよくない状態が続いていたが、1投目から徐々に記録をのばしていき3投目の10m63で27位となった。

混成競技

2部男子混成(5/13-5/14)

男子混成競技には持永(2年)、島田(M1)の出場。持永は4種目で自己ベストを更新し、総計でも162点更新したが入賞にはわずかに届かず9位。島田は初日好調な滑り出しを見せたが、得意の2日目が伸びずに5594点で10位であった。

1日目(5/13)

9:30 男子混成100m

2組目の2レーンに持永、6レーンに島田の出場。島田は良いスタートを切り序盤は上位でレースを進めたが、後半遅れ11"71(709点)でゴール。持永は緊張からか全体的に硬い動きとなってしまったが、追い風もあり自己ベストの11"80(691点)であった。

10:30 男子混成走幅跳

走幅跳は苦手な持永であるが、1跳目、2跳目としっかり板に乗り立て続けに自己記録を更新した。3跳目は6m近い跳躍となったがわずかにファールしてしまい、2跳目の5m87(559点)が記録となった。今年に入って6m台の記録を安定して残している島田は1跳目に6m30ほどのジャンプを見せるも5cmファールしてしまう。2跳目、3跳目は踏切板の手前からの踏切となり、6m03(593点)に終わった。

12:40 男子混成砲丸投

島田は10m後半の自己記録を持っている得意種目であるが練習投擲では9m半ばしか投げられず、苦戦が予想された。本番の試技ではいくらか修正され、10m27(502点)を記録したが10m50越えはならなかった。持永は今年に入って10mを安定して越えているが、今回は力みからか9m70(468点)と得点を伸ばせなかった。

14:30 男子混成走高跳

この種目が10種目中最も苦手な島田であるが、今回は1m60までを1回でクリアし自己ベストとなる1m65も3回目でクリアして504点を獲得する健闘を見せた。持永は1m60、1m65と1回でクリアするも、1m70は2回失敗してしまう。しかし3跳目力みの抜けた跳躍で成功し、1m70(544点)となった。

17:50 男子混成400m

島田は1組目に出場。前半はリラックスして走り後半も粘りを見せ、自己ベストとなる54"03(638点)でゴールした。2組目に出場した持永は前半は押さえ気味に入ったが、ラストの100mでは2人かわすスパートをみせ、53"35(667点)でゴール。

2日目(5/14)**9:00 男子混成110mH**

3レーンに島田(M2)、8レーンに持永(2年)の出場。これまでハードルを必要以上に高く飛び越えタイムを損していた島田であるが今日は滑らかなハードリングを見せ、17"42の自己記録の更新を期待させる走りを見せた。残念ながら9台目でハードルにぶつかって転倒しそうになり10台目は4歩で辛うじて越え大幅に減速してしまったが、17"68(555点)でゴールした。持永は何台か足をぶつけてしまうハードリングであったが、それほど減速することも無く17"59(564点)でゴールした。

10:10 男子混成円盤投

島田は直前のハードルで痛めた足の影響を感じさせない投擲を見せ、1投目に32m96の記録を残し混成出場者の中で最高となる523点を獲得した。持永は1投目に自己ベストに迫る28m34(432点)を投げたが、2、3投目はうまく円盤に力を加えることができず記録は伸ばせなかった。

12:30 男子混成棒高跳

島田は2週間前に4mをクリアしており、今回も開始の高さである3m60を難なくクリ

アした。しかし、3m80では強い向かい風に悩まされ、疲労からか助走スピードも遅くなりバーの手前で落下してしまう跳躍となり跳ぶことはできず3m60と得意種目で点数を稼ぐことができなかった。持永は今シーズン3m70がベストであるが、跳躍回数を減らすため3m60から開始した。最初の2跳は突込みがつぶれ、足も流れてしまい失敗。記録なしの危機に立たされたが3本目はしっかり跳ぶことができ成功。結局、2人とも3m60で509点を獲得した。

16:00 男子混成やり投げ

槍投は不得手な持永であるが、練習の成果が出て自己ベストとなる39m92(441点)を1投目に投げる。2、3投目も悪く無い投げであったが1投目には届かなかった。島田は練習投擲からヤリに力の伝わらない投擲が続き、1投目はまさかの30m台前半。2投目で44m42(506点)まで持っていったがこれ以上は伸びずに不本意な結果に終わってしまった。

18:00 男子混成1500m

1500mが得意な持永は2位集団につけ、最初の1000mは体力を温存。最後の1周でスピードを上げ、ラスト300mを49秒で走りきり、自己ベストとなる4'26"10(770点)をマークした。島田は昨年同様、最初の1周は最後尾からのスタートとなったが、2周目で追い上げ1人、2人と抜いていく。最後の直線も懸命に走りきり、5'00"87(555点)でゴールした。

1.5 試合結果**第84回関東学生陸上競技対校選手権大会**

於 国立競技場 (H17.5.8,13-15)

2部男子100m決勝(+1.1)			
1	岩本俊介	城西国大	10"49
2	卜部健太郎	千商大	10"56
3	樋口慎一郎	立大	10"65

4	長谷憲明	横国大	10"73
5	長野誠	慶大	10"85
6	加瀬吉彦	千商大	10"89
7	鈴木翔大	慶大	10"92
-	片山昇	東理大	DNQ

2部男子 100m 準決勝 (4着)

1組 (+2.4)

5	米田武史	東大	10"74
---	------	----	-------

2部男子 100m 予選 (3着+1)

2組 (+0.0)

2	米田武史	東大	10"80
---	------	----	-------

2部男子 800m 決勝

1	八木智之	慶大	1'51"22
2	福田涉	千商大	1'52"32
3	古矢真志	青学大	1'52"78
4	足立翔太	東農大	1'52"90
5	佐藤克久	千商大	1'54"05
6	平山義一	東農大	1'55"25
7	笹谷甲	大東大	1'55"37
8	阿久津浩之	亜大	1'55"48

2部男子 800m 予選 (2着+2)

1組

5	村井昂志	東大	1'57"82
---	------	----	---------

3組

6	石井康雄	東大	1'59"97
---	------	----	---------

2部男子 1500m 決勝

1	大坪裕樹	駒大	3'52"81
2	清水健司	帝京大	3'54"03
3	笹谷甲	大東大	3'55"09
4	藤井和也	神大	3'55"09
5	大坪恭平	青学大	3'55"64
6	村元仁	青学大	3'56"17
7	中山壮一	横国大	3'56"29
8	角裕	帝京大	3'58"03

2部男子 1500m 予選 (5着+2)

2組

7	新井邦生	東大	3'59"59
---	------	----	---------

2部男子 110mH 決勝 (+1.2)

1	八幡賢司	順大院	14"13
2	染谷孝広	東農大	14"70
3	笈川貴行	東都大	14"16
4	齋藤正孝	城西大	14"99
5	中村政道	神大	15"09
6	鈴木直哉	城西大	15"13
7	山藤大士	千葉大	15"14
8	大谷智哉	青学大	DNF

2部男子 110mH 準決勝 (4着)

1組 (+0.7)

6	田中啓	東大	15"69
---	-----	----	-------

4組 (-1.8)

6	尾崎翔	東大	15"84
---	-----	----	-------

2部男子 110mH 予選 (3着+1)

1組 (+0.7)

4	尾崎翔	東大	15"56
---	-----	----	-------

4組 (± 0.0)

3	田中啓	東大	15"80
---	-----	----	-------

2部 10000W 決勝

1	春木洋輔	東大院	45'10"25
2	大野友之	清和大	45'45"48
3	飯田哲也	東学大	45'49"13
4	鈴木隼人	東農大	45'57"07
5	玉手佑弥	慶大	47'48"40
6	野口大輔	防大	48'08"18
7	是石智文	専大	48'21"48
8	銭廣	国学大	49'04"23
11	深尾寅彦	東大	52'26"54
12	菅野雄大	東大	52'59"19

2部男子 4 × 100mR 決勝

1	慶大	41"20
2	千商大	41"40
3	東理大	41"42
4	創価大	41"54
5	横国大	41"76
6	学院大	41"79

- 7 立大 41"86
- 東学大 DSQ

2部男子4×100mR予選(3着+4)

3組

- 東京大学 DSQ
(藤本-瀧山-米田-磯部)

2部男子4×400mR決勝

- 1 千商大 3'12"86
2 東農大 3'12"94
3 東経大 3'13"18
4 宇大 3'14"04
5 横国大 3'15"72
6 群大 3'16"42
7 電通大 3'16"63
8 学習院大 3'16"82

2部男子4×400mR予選(2着+2)

1組

- 6 東京大学 3'24"51
(田中-沖田-今村-小澤)

2部男子走幅跳決勝

- 1 渡邊敬大 千商大 7m28(+1.7)
2 森下裕史 東学大 7m25(+1.1)
3 木村友紀 東学大 7m23(+0.5)
4 藤原泰裕 東学大 7m12(+0.6)
5 宮本貴紀 国士大院 7m03(± 0.0)
6 福田雄介 群大 6m93(+1.9)
7 竹内昌男 東大 6m84(+1.1)
8 本間崇之 慶大 6m78(± 0.0)
9 相川啓佑 東大 6m78(+0.1)
10 吉岡和夫 東大院 6m72

2部男子三段跳決勝

- 1 木村友紀 東学大 15m24
2 渡辺真樹 群大 15m17
3 上村孝司 国士大院 15m07
4 川幡俊行 明海大 14m96
5 藤原泰裕 東学大 14m86
6 吉野学 茨大 14m81
7 佐藤啓太 東経大 14m47

- 8 佐野太郎 東大 14m12

2部男子棒高跳決勝

- 1 渡辺孝太郎 慶大 4m80
2 柴本鋼平 東情大 4m60
2 佐藤諭 日体大院 4m60
2 山本雄也 横国大 4m60
2 池田聡史 横国大院 4m60
6 林達也 宇大 4m50
7 塚田信哉 東農大 4m50
8 日向弘承 東学大 4m20
- 大谷真人 東大 NR

2部男子砲丸投決勝

- 1 小林志郎 国士大院 15m64
2 海老原大輔 茨大 14m65
3 相京優也 群大 14m05
4 加藤久晴 東学大 13m84
5 松本有剛 玉川大 13m75
6 久保田尊士 山梨大 13m10
7 村上友太 成蹊大 12m72
8 小畑優太 学習院大 11m99
18 岡野浩行 東大院 11m29
27 小林宗隆 東大 10m63

2部男子円盤投決勝

- 1 小林志郎 国士大院 53m04
2 與名本稔 東海大院 44m18
3 根本良平 上武大 40m72
4 比留間浩介 山梨大 40m52
5 坂寄信行 宇大 40m18
6 相川優也 群大 38m00
7 桜井太郎 群大 36m26
8 合田隆彦 東大 35m72
28 庄司宇 東大 28m74
- 岡野裕行 東大院 NR

2部男子ハンマー投決勝

- 1 藤田健祐 国士大院 52m98
2 市浦友也 東学大 50m71
3 舩谷直樹 上武大 47m31
4 阿部和彦 宇大 47m25
5 相京優也 群大 46m29

6	高橋孝幸	東農大	46m18
7	若井裕介	国学大	45m83
8	渡部俊輔	上武大	43m18
9	小笠原義之	東大	41m94
19	岡野浩行	東大院	35m28

2部男子やり投決勝

1	中島亮太	国士大院	66m72
2	斎藤聡信	国士大院	65m20
3	福田亮介	茨大	63m13
4	井上直紀	東大院	62m75
5	中村慎	城西大	59m63
6	桑田和佳	神大	59m63
7	桜井太郎	城西大	56m81
8	森大介	上武大	56m19
15	岡野浩行	東大院	51m61
22	関原孝之	東大	47m50

2部男子十種競技

1	柴本鋼平	東情大	6368
2	橘京佑	東学大	6351
3	佐藤諭	日体大院	6044
4	中川大輔	慶大院	5968
5	澤邊直人	山梨大	5908
6	矢野隆照	東学大院	5889
7	岩下剛士	都留文大	5746
8	塩谷尚之	都留文大	5707
9	持永新	東大	5645
10	島田俊雄	東大院	5594

2部男子総合

1	千商大	88
2	慶大	58
3	東学大	46
4	神大	42
5	国士大院	36
6	横国大	36
7	東農大	35
8	群大	35
32	東大院	8
44	東大	4

女子800m決勝

1	岸川朱里	日体大	2'10"51
2	村山いづみ	横国大	2'10"70
3	今入由記	筑波大	2'11"42
4	大湊慧	筑波大	2'12"08
5	池田麻美	順大	2'12"13
6	泉知世	日女体大	2'12"24
7	安達麻衣子	日体大	2'12"67
8	圓生法子	筑波大	2'15"05

女子800m予選(2着+2)

1組			
5	目黒亜由子	東大	2'16"14

女子棒高跳決勝

1	南野弥生	筑波大	3m90
2	吉原礼	筑波大	3m65
3	中川舞子	早大	3m60
4	日下礼子	日体大	3m60
5	井桁愛	早大	3m50
6	小宮留美子	日女体大	3m50
7	平澤沙知	日体大	3m40
8	田中宏美	早大	3m40
14	本間諒子	東大	3m00

女子総合

1	筑波大	170
2	日体大	118
3	順大	62
4	日女体大	59
5	国士大	48
6	東学大	47
7	早大	33.5
8	中大	33
28	東大	0

2 国公立戦

2.1 監督の言葉

国公立戦 監督 八田 秀雄

国公立戦は5月21日上柚木競技場で行われました。天気はよく風もよく、よいコンディションでした。関東インカレから中5日での大会とな

り、取り組み方に難しい面がありますが、結果としてはトラック優勝するなど、まずまずのいい結果が出て、総合は2位でしたが、今後に向けて少し明るさが見えてきました。個人的には110Hで尾崎 15.48、梅澤 15.53と二人が関東インカレA標準を切ったのが光りました。その他1500mで月崎、石原が4分7秒台と8秒台のベスト。100.400.1500.400Hで3人入賞など、トラックがいい結果が残せました。フィールドは、今ひとつで層の薄さが出てしまいました。1年大谷が棒 3.90。幅で武安が 6.50とフィールドの新人が頼もしく見えました。女子は少ない人数で、塩入が400mで1位。向田が800mと3000mで2位になるなどで、総合2位はよくやれたと思います。七大で通用する記録ではない種目も多く、楽ではないですが、少なくとも前進はできた大会でした。

2.2 主将の言葉

主将 米田武史

関東の一週間後というじきにもかかわらず、男子は優勝・2位の総合2位という結果でした。総合力では学芸大学に力及ばず負けましたが、を中心に良い結果を残せたと思います。なにより、今回は競り勝ったりしたものが多く、記録以上に勝負に勝てたものが多いという点において、収穫が大きかったと思います。ただ、問題点も少しずつ出てきて、これから四大戦・七大戦と、どんどん厳しい戦いになっていくところでどれだけ頑張れるか、が大事だと心に秘めつつ更なる成長を誓う、ということになりました。

2.3 試合経過

トラック

9:20 男子 1500m 予選

1500m 予選は2組5着までと上位記録2名が決勝進出となった。関東インカレに出場した新井(3年)の優勝は盤石、石原と月崎の2年生はいずれも成長著しく、3人揃っての入賞が見込まれた。1組目に新井(3年)、月崎(2年)の出場。400mを69"で通過するゆっくり

とした展開。新井、月崎ともに序盤から先頭につき、新井は600mでトップに出ると、一度も先頭を譲ることなく4'14"22で1着通過。月崎も4'16"98の5着で決勝に進んだ。

2組目に石原(2年)の出場。スタートと同時に先頭をキープし、力を温存するためゆっくりしたペースで400mを71"で通過。900mから東工大の選手が先頭に出てペースが上がり、2人の先頭争いとなるがラスト100mで抜き返し4'18"84の1着で予選を通過した。

9:40 女子 100m 予選

1組6レーンに小原(3年)の出場。故障明けで本大会が今季初戦となる小原だが、スムーズにスタートして序盤から2着を確保する。リラックスした走りでも東学大の選手を追い、そのまま13"49(-0.9)の2着でゴールし、予選通過。

2組3レーンに堀越(M2)の出場。スタートの飛び出しはよく、力強い走りで加速する。3着の位置で中盤に入るが、後半は力みが見られ失速し、1人にかわされて13"76(±0.0)の4着でゴール。プラスで予選通過となった。

10:00 男子 100m 予選

1組4レーンに米田(4年)の出場。序盤から他を圧倒し、70m付近で横を見る余裕を見せる。最後は流して、11"05(+2.0)の1着でゴールし、予選通過。

2組7レーンに田中(2年)の出場。序盤はトップ争いをするが、苦手の広範にやはり課題が残り、11"44(+1.7)の3着でフィニッシュ。大学ベストを更新し、抽選の結果プラスで予選通過。

3組4レーン瀧山(3年)の出場。前半の動きにキレがなく、加速しきれない。後半ののびもいまひとつで11"30(+1.5)の3着でゴール。プラスで予選通過となった。

10:35 女子 800m 予選

1組6レーンに向田(3年)の出場。スタート直後から他大の選手2人が飛び

出すも、向田は焦らず終始自分のペースで3番手を維持し、2'38"45の3着でゴール。余裕を持って決勝進出を決めた。

10:55 男子 800m 予選

800m 予選は、昨年までに比べて出場者が増し、4組1着までと上位記録4名が決勝進出となった。東大勢の実力は他大に比べ抜きんでており、予選では決勝にうまく繋げるレースが期待された。

2組4レーンに村井(4年)が出場。村井は初めから先頭集団を形成して400mは先頭で59"の通過。ラストの直線で後続も追い上げるが危な気なく1着の通過となった。

3組4レーンに庄司(4年)が出場。先頭の東工大の選手の後ろにつき、2番手でレースをすすめる。400mを59"で通過し、そのままの位置を維持して1'59"97の2着でゴールし、予選を通過した。

4組5レーンに割沢(3年)が出場。落ちついたスタートでうまく3番手あたりにつける。400m付近で1人を抜き、バックストレートではさらに仕掛けて先頭に立つ。そのままゴールかと思われたが、膝の故障の影響か、ラスト70mあたりでがくんとペースダウン。2'04"05の3着で予選落ちとなった。

11:05 男子 400m 予選

1組5レーンに小澤(2年)の出場。前半から積極的にとばしバックストレートでトップに立つ。後半もそのスピードを維持し300m付近でインレーンの選手にかわされるも、52"29の2着で予選通過。

2組5レーン田中(佑)(4年)の出場。スタートから順調にスピードを上げ、バックストレートでアウトレーンの選手と集団から抜ける。コーナーを抜けてそのまま2人で競り合い、51"41の2着で予選通過。

3組3レーン沖田(2年)の出場。スター

トから200mまでリラックスしてレースを展開。第3コーナーに入り徐々にスピードを上げコーナーを抜けて2着。その後は様子を見つつゴールし、52"39の2着で予選通過。

11:25 男子 110mH 決勝

3レーンに梅沢(3年) 5レーンに尾崎(1年)の出場。梅沢は動きがキレており、2台目まで先頭争いを演じた。中盤以降先頭争いから脱落してしまうも、激しい3位争いを制し、15"53の3位、自己ベストであった。

尾崎も動きは良く、中盤まで先頭争いをした。中盤以降トップに離されてしまうも15"48の2位、自己ベストであった。このとき風は±0.0mであった。

11:40 男子 200m 予選

2組5レーンに瀧山(3年)の出場。瀧山は前半から調子が悪く、コーナー出口でインコースに一歩踏み出す。後半もぎこちない動きで、ゴール手前で流すようにフィニッシュ。22"98の5着で予選落ちだった。このとき風は±0.0mだった。

3組4レーンに今村(2年)の出場。今村は、前半は無難な滑り出しで、コーナー出口で先頭集団につける。後半も引き離されることなく走りきった。22"91の3着で予選落ちだった。このとき風は+1.0mだった。

12:00 男子 400mH タイムレース決勝

1組2レーンに平林(2年)、5レーンに伊勢田(3年)の出場。400mH初出場の平林は、1台目から足があわず、序盤から苦しい展開に。途中も所々でつまるも、何とか走りきった。62"51の3着であった。(総合6位)伊勢田は、最初からインターバルが17歩になってしまった。故障明けということもあって後半の走りにも課題が残った。59"87の2着であった。(総合4位)

2組6レーンに坂田(3年)の出場。坂田は安定したハードリングを見せ、無難にレースをまとめたが、走力不足が浮

き彫りとなった。61 04の3着であった。(総合5位)

13:15 女子 100m 決勝

2レーンに堀越(M2)、5レーンに小原(3年)の出場。堀越はタイミングばっちりの好スタート。中盤では伸びを欠いたがそのまま安定した走りですつなぎ6位でゴールした。タイムは13"76。小原は無難なスタートを切るが加速は上手くいかず序盤で差がつく。しかし中間加速で大幅な伸びを見せて3位に躍り出る。前を行く学大の二人と差を縮めるが追いつくには至らずそのままゴール。13"30の3位だった。この時、風は+1.4mだった。

13:20 男子 100m 決勝

3レーンに米田(4年)の出場。最高のスタートダッシュを見せ、終始他をよせつけず、危なげなく10"93で優勝。主将の貫禄を見せつけた。

8レーンに瀧山(3年)の出場。予選から不調であったが、決勝でもうまく加速できず、11"59の7位でフィニッシュ。力を出し切れなかった。

1レーンに田中(2年)の出場。序盤はうまく飛び出す。中盤から広範にかけてはなされ、11"64の8位でゴール。しかし、決勝に残り対抗選手としての仕事は見事に果たした。このときの風は-0.6mであった。

13:25 男子 1500m 決勝

新井(3年)、石原(2年)、月崎(2年)の出場。新井、石原は予選を1着で通過しており、期待がかかる。スタートと同時に石原が先頭に立ち集団を引っ張る。そのすぐ後ろについた月崎に対し、新井は最後尾からのスタート。400mの通過は62"で、石原を先頭に新井、月崎を含む5人の先頭集団が形成された。1000mで新井が仕掛けると集団は崩れる。新井は一橋の選手との一騎打ちを制して4'01"77で1位。月崎は新井の仕掛けに対応して一時2番手となるもその後2人に抜かれ4'07"34で4位。

序盤から積極的な走りを展開した石原は4'08"56の5位であった。暑さから体調が万全でなかった新井は点の獲得のため勝負に徹し、月崎、石原は共に自己ベストだった。計17点という大量点を獲得し、各人期待に十分に答えるレースであった。

13:45 女子 400m 決勝

6レーンに塩入(5年)の出場。前半はリラックスしながら走り、追い風となるバックストレートでは徐々に前との差がつかってきた。コーナーに入り3レーンの選手が前に出てきたが、ホームストレートでスパートをかけ見事59"66で優勝。去年京大戦からのブランクを感じさせない力強い走りであり、七大戰に向け順調なスタートとなった。

13:50 男子 400m 決勝

2レーン沖田(2年)の出場。スタート、前半は予選と同じように力を押さえながら様子をうかがった。コーナー入り口からスパートし、コーナーを抜けたところで2位。そこからスピードを落とすことなく50"84の2位だった。

4レーン田中(佑)(4年)の出場。スタートから100mをとばし第2コーナーを抜けまらずの出だし。インコースの選手にバックストレートで抜かされるが、ペースを保つ。後半は多少失速し、52"32の5位だった。

8レーン小澤(2年)の出場。スタートではほかの選手に遅れなかったものの、バックストレートではスピードに乗り切れずコーナーに入る。後半、ホームストレートで粘り、52"90の6位だった。

13:55 女子 800m 決勝

6レーンに向田(3年)の出場。100mを過ぎたところで集団は早くも2、3、3人の3つに分かれ、向田は第2集団につく。2周目に入ると2番手の選手が疲れを見せ始め、第2集団との差が縮まっていく。ラスト200mになると向田は華麗なスパートを見せて第2集団の先頭に立ち、2番手だった選手もそ

のまま一気に抜き去り、2'26"89の自己ベストでゴール。2位と上々の結果を残した。

14:05 男子 800m 決勝

2レーンに村井(4年)、4レーンに庄司(4年)の出場。スタート直後から庄司は先頭に立ち、村井は4番手あたりにつける。ゆったりとしたペースでホームストレートに入ると、そこから村井が先頭に並びかけ、2人同時に400mを58"で通過。2周目のバックストレートでは村井が先頭に立ち、2人のマッチレースになるかと思われたが、予選で庄司に先着した東工大の選手が一気に2人をかわし、差をつけにかかる。庄司は、ややペースを落とした村井をかわし、懸命に先頭を追うが届かず。庄司が1'58"77の2位、村井が1'59"96の3位であった。惜しくも優勝は逃したが、4年生2人の活躍で13点を獲得した。

14:15 男子 4 × 100mR タイムレース決勝

2組5レーンに瀧山(3年)、磯部(3年)、田中(2年)、田中(4年)の走順で出場。1走瀧山(3年)はややスタートで出遅れるものの、後半追い上げ前との差をつめて、2走磯部(3年)にバトンをつなぐ。磯部は前半鋭い加速を見せるが、後半に失速。しかし、3走田中(2年)へ素晴らしいバトンパスでつなぐ。田中は100m決勝の疲れが走りだったが無難に走り4走田中(4年)にバトンをつなぐ。3、4走のバトンも素晴らしく、田中は順位を守ってそのままフィニッシュ。タイムは43"67のタイムレース4位であった。

14:25 女子 3000m 決勝

清水(3年)、向田(3年)の出場。スタート直後から集団は縦に広がり、自己ベストを更新した800m決勝からわずか30分後の出場となった向田は集団の前方に、清水は後方につく。400mを過ぎて集団がばらけても、向田は先頭に喰らい付き3名による先頭集団を形成す

る。1人選手が飛び出した後は2番手の後方にしっかりつき、ラスト300mから鮮やかにペースを切り替えて10'46"91の2位でゴール。本日3レース目の疲れを全く感じさせない素晴らしいレースであった。一方、レース序盤から集団の後方につけていた清水は、長距離種目にはやや厳しい暑さと日差しのせいもあって、後半に若干ペースを落としてしまうが、目標の12分半を切る12'21"57の8位でゴールした。

14:55 男子 5000m 決勝

中原(4年)、片岡(3年)、千島(3年)の出場。一橋の富田や東工大の岩佐など力のあるライバルが1500mを2本走り終えた後ということもあり、中原らに優勝の期待がかかる。かなりの暑さの中でのスタート。互いに牽制しあい、集団のまま1000mを3分07秒で通過。東大の3選手は集団の前方に位置取る。2000mを過ぎると集団は縦長になり、先頭集団は3選手を含む7人となる。3000mはスローペースのまま9分28秒で通過。中原、片岡の表情には余裕が見られるが、千島はややピッチが落ちてくる。3200m過ぎに一橋の富田が飛び出し、中原、片岡はついてゆくが、千島は遅れる。先頭集団は中原、片岡を含む4人となり、そのまま後続を引き離す。残り500mで中原が仕掛けるが、富田は離れず、残り200mで中原を抜き返し、そのまま逃げきる。中原は富田に2秒ほど遅れる15'37"40の2位でゴール。ラストで競り負けたものの、チーフらしくレースに見せ場を作った。片岡は中原の仕掛けには対応できなかったものの、15'44"67の自己ベストで4位入賞。対校選手としての初レースながら、冷静なレース運びであった。千島は暑さのためか、3000m以降ペースが落ち、ずるずると後退し16'36"74の13位でゴール。今後の対校戦でも選手としての活躍が期待されるだけに課題の残るレースであった。

15:25 女子 4 × 100mR 決勝

6レーンに東大の出場。1走小原(3年)はスタートから順調に加速し外のレーンの選手を抜き去る。2走塩入(5年)へスムーズにバトンが渡るが内側のレーンの学芸大に抜かれてしまう。そして2位で三走本間(2年)にバトンが渡る。本間はコーナーをうまく走るが4走堀越(M2)とのバトンパスは詰まってしまう。堀越は直線を力強く駆け抜け52"66での2位を守り切った。

15:30 男子4×400mR 決勝

東京大学は、今村(2年)、小沢(2年)、田中(4年)、沖田(2年)の走順で1組2レーンに出場。1走今村は、終始安定した走りを見せ、他校のバトンミスもあってトップでバトンをつないだ。2走小沢は400m走の疲れが残っているのか、走りに精彩を欠き、後半失速して順位を一つ落とした。3走田中は、連走の疲れを見せないすばらしい走りでトップとの差を詰め、バトンをアンカー沖田へ。4走沖田は、押さえ目の走りで前との差を徐に詰めていき、バックストレートを抜けたあたりから猛然とスパート、トップをかわして1位でゴールした。記録は3'26"89の2位であった。

フィールド

9:30 男子砲丸投 決勝

田上(3年)、小林(2年)、庄司(2年)の出場。晴天で気温が高く、朝から動きやすいコンディションであった。田上は1投1投げ方を変えながら、記録を狙っていく。すると立ち投げをした3投目に9m65を出し、大幅にベストを更新して7位で折り返す。小林は1投目に10m54を投げ、その後も安定した投擲で上位を目指す。3投目まで記録は伸びず4位。庄司は手首の怪我から砲丸をしっかりと押し出すことができず、苦戦する。それでも3投目に8m61を投げることができたが、9位となる。4投目以降、田上と小林は投げを修正しながら順位を上げようとする

が、記録が伸びずに終了する。順位は変わらず小林4位、田上7位であった。

9:30 男子走幅跳 決勝

相川(3年)、竹内(3年)の出場。関カレが終わり、四大戦、七大戦を見据えた自己の課題を明確にする上で重要な試合であった。相川は、前半三回の試技では助走がつまってリズムが乱れ、持ち味のスピードを活かした跳躍をすることができず、6m48にとどまった。しかし、決勝では4、5本目と徐々に助走を修正し、最終試技では自己ベストに2cmと迫る6m89を跳んで、見事2位に食い込んだ。六大戦、関カレ、国公立戦と記録的に安定しており、四大戦、七大戦でも活躍が期待できるだろう。一方の竹内は苦しい展開となった。2本目には6m44を跳んで決勝進出を果たしたものの、決勝の試技中に足首を痛めるというハプニングに見舞われ、記録を伸ばすことはできなかった。記録的には揮わなかったが、1本目、特に3本目では本人も納得のいく助走ができ、ファールながらも7mを優に超えていることに注目したい。今回の感覚をものにできれば、全カレ標準も視野に入ってくることだろう。最終的な結果は、相川が6m89で2位、竹内が6m44で5位であった。

10:30 男子棒高跳 決勝

大谷(1年)の出場。今季関カレに続き2戦目のため、慎重に3m60から試技開始。風に悩まされ3m60を2回目、3m80を3回目でクリア。3m90の1回目は足が合わず失敗するが、2回目で助走を修正しクリア。続いて4m00の1、2回目は助走にキレがなく失敗。3回目は突込みが弱く失敗で試技終了。結果、3m90で3位となった。

10:30 男子走高跳 決勝

小福田(1年)の出場。小福田は1m50から試技を開始するも、走高跳初心者で背面跳びがまだしっかりととはできないということもあり、3回とも失敗し、記録なしに終わった。

12:30 女子走幅跳 決勝

堀越 (M2)、本間 (2年) の出場。追風の吹く、よいコンディションであった。堀越は1本目に4m57を跳ぶ好調な出だしでベストエイトに残る。途中、100m決勝のため一時抜けるが、その疲れも見せず5本目にはさらに記録を伸ばし4m61で7位であった。本間は3本目に4m72を出し、その後記録を伸ばすことはできなかったが4位となった。

12:30 男子円盤投 決勝

庄司 (2年)、小林 (2年)、関原 (2年) の出場。天気の良い上に気温が高く、時折右よりの向かい風が吹く絶好のコンディションでの試合となった。庄司は砲丸投で得点できなかった悔しさを晴らそうと、専門種目の円盤投では気合が入るところ。1投目は左にそれるも無難に25m60の記録、そして集中して臨んだ2投目では29m27の好投擲を見せ5番手でベスト8に進出した。しかし、後半記録を伸ばせず、6投目ではベスト8の6番手から1cm差で逆転されてしまい、庄司の最終順位は6位であった。小林は、前半3投では円盤が立ってしまうなど、技術をまとめきれず低調な記録に終わる。3投目の24m12でぎりぎりベスト8に滑り込んだ。しかし、気分を一新して臨んだ4投目では、きれいな投擲で自己ベストを1cm更新する26m68の記録を残した。5,6投目は惜しくもファールだった。結局4投目の記録で7位となった。関原は、足首の捻挫からまだ完全に回復していなかったため、負担がかかるターンスローを断念。それでも2投目、スタンディングで25m53の記録を残して7番手でベスト8に食い込んだ。4投目以降は得意のやり投げに向かうためパスし、最終的に8位となった。

14:00 男子やり投 決勝

石井 (4年)、田上 (3年)、関原 (2年) の出場。石井は1投目に43m75を投げ、この記録でベストエイトに残るもののそれ以降記録を伸ばすことができず8

位。田上は練習では40mを超える投擲を見せるが、本番になると槍が立ってしまいファールを続け記録なしに終わる。関原は1、2投目で足がわずかに出してしまうファールを続けリズムを崩し、3投目の48m10で何とかベストエイトに残るが、崩れたりリズムを元に戻すことはできずこの記録で5位であった。

14:00 男子三段跳 決勝

林 (3年) の出場。一跳目はホップで浮きすぎたためステップ以降が跳べず、ファール。二跳目もバランスを崩し11メートル台の跳躍。三跳目で12m21と12メートル台に乗せるのがやっとでその後も記録を伸ばせず、7位に終わる。今シーズン初戦の林は練習不足を露呈した形となり悔しい一戦となった。

2.4 試合結果

第53回東京地区国公立大学対校陸上競技大会
於 上柚木公園陸上競技場 (H17.5.21)

100m 決勝 (-0.6)		
1	米田 東大	10"93
2	高橋 東学大	11"08
3	山原 首都大	11"11
4	高橋 東学大	11"23
5	染谷 医歯大	11"44
6	鳴海 電通大	11"44
7	瀧山 東大	11"59
8	田中 東大	11"64
100m 予選		
1組 (+2.0)		
1	米田 東大	11"05
2組 (+1.7)		
3	田中 東大	11"44
3組 (+1.5)		
3	瀧山 東大	11"30
200m 決勝 (+1.6)		
1	河添 東学大	22"02

2	高橋	東学大	22"11
3	瓦田	一橋大	22"12
4	山原	首都大	22"43
5	染谷	医歯大	22"82
6	立石	電通大	22"85
7	広瀬	一橋大	22"85
8	鳴海	電通大	23"15

200m 予選

1組 (-0.9)			
-	米田	東大	DNS
2組 (± 0.0)			
5	瀧山	東大	22"98
3組 (+1.0)			
3	今村	東大	22"91

400m 決勝

1	鈴木	東学大	49"75
2	沖田	東大	50"84
3	岡本	一橋大	51"62
4	西永	首都大	51"66
5	田中	東大	52"32
6	小澤	東大	52"90
7	前島	東学大	53"23
8	中本	首都大	53"38

400m 予選

1組			
4	小澤	東大	54"03
2組			
2	田中	東大	51"41
3組			
2	沖田	東大	52"39

800m 決勝

1	大堀	東工大	1'57"76
2	庄司	東大	1'58"77
3	村井	東大	1'59"96
4	三宅	首都大	2'01"74
5	大久保	東学大	2'02"36
6	朝永	電通大	2'02"60
7	関谷	東学大院	2'03"08
8	庄村	一橋大	2'03"95

800m 予選

2組			
1	村井	東大	1'59"85
3組			
2	庄司	東大	1'59"34
3組			
3	割沢	東大	2'04"05

1500m 決勝

1	新井	東大	4'01"77
2	富田	一橋大	4'02"27
3	岩佐	東工大	4'05"76
4	月崎	東大	4'07"34
5	石原	東大	4'08"56
6	浅川	東学大	4'10"45
7	斎藤	東学大	4'11"21
8	伊藤	東学大	4'12"05

1500m 予選

1組			
1	新井	東大	4'14"22
5	月崎	東大	4'16"98
2組			
1	石原	東大	4'18"84

5000m 決勝

1	富田	一橋大	15'35"49
2	中原	東大	15'37"40
3	関谷	東農大	15'42"95
4	片岡	東大	15'44"67
5	原田	首都大	15'53"51
6	岩佐	東工大院	15'56"65
7	小林	電通大	15'59"46
8	中西	東工大	16'10"84
13	千島	東大	16'36"74

110mH 決勝 (± 0.0)

1	藤原	東学大	15"18
2	尾崎	東大	15"48
3	梅澤	東大	15"53
4	橘	東学大	15"54
5	田村	電通大	16"06

6	石川	一橋大	16"99
7	門脇	東学大	18"12
-	米田	東大	DNS

400mH(タイムレース決勝)

1	田村	電通大	54"12
2	門脇	東学大	57"64
3	福島	一橋大	59"72
4	伊勢田	東大	59"87
5	坂田	東大	61"64
6	平林	東大	62"51
7	藤原	東学大	64"13
8	大石	医歯大	65"34

4 × 100mR タイムレース決勝

1	東学大	41"93
2	一橋大	42"76
3	電通大	43"35
4	東大	43"67

(瀧山-磯部-田中啓太-田中佑貴)

5	首都大	43"78
6	医歯大	45"74
7	外語大	46"34
8	東工大	46"53

4 × 400mR タイムレース決勝

1	東学大	3'24"42
2	東大	3'26"89
	(今村-小澤-田中-沖田)	
3	電通大	3'27"87
4	首都大	3'28"64
5	一橋大	3'28"70
6	東農大	3'34"93
7	東工大	3'35"76
8	医歯大	3'47"79

走高跳決勝

1	増田	首都大	1m90
2	滝田	東学大	1m85
3	石川	一橋大	1m85
4	黒田	東学大	1m80
5	矢野	東学大院	1m75
6	織江	東工大	1m65

7	片桐	法大	1m60
-	小福田	東大	NR
-	木村	東大	DNS
-	持永	東大	DNS

棒高跳決勝

1	日向	東学大	4m60
2	池和田	東学大院	4m60
3	大谷	東大	3m80
-	持永	東大	DNS
-	木村	東大	DNS

走幅跳決勝

1	藤原	東学大	6m98
2	相川	東大	6m89
3	木村	東学大	6m84
4	植竹	東工大	6m54
5	竹内	東大	6m44
6	滝田	東学大	6m38
7	大西	首都大	6m12
8	瓦田	一橋大	6m04
-	佐野	東大	DNS

三段跳決勝

1	藤原	東学大	14m79
2	木村	東学大	14m75
3	石川	一橋大	13m70
4	増田	首都大	13m33
5	滝田	東学大	13m05
6	植竹	東工大	13m00
7	林	東大	12m12
8	八幡	医歯大	11m68

砲丸投決勝

1	加藤	東学大	13m10
2	井上	東学大	10m74
3	橘	東学大	10m68
4	小林	東大	10m54
5	定成	一橋大	10m37
6	金子	海洋大	9m81
7	田上	東大	9m67
8	武川	一橋大	9m36

円盤投決勝

1	加藤	東学大	40m47
2	市浦	東学大	34m84
3	井上	東学大	32m08
4	武川	一橋大	31m37
5	定成	一橋大	29m28
6	庄司	東大	29m27
7	小林	東大	26m68
8	関原	東大	25m53

やり投決勝

1	井上	東学大	58m79
2	諏訪部	首都大院	53m95
3	松浦	東学大	53m93
4	金子	海洋大	52m09
5	関原	東大	48m10
6	木村	東学大	47m71
7	金子	東農大	45m95
8	石井	東大	43m75

トラック順位

1	東京大学	94
2	東京学芸大学	71
3	一橋大	50

フィールド順位

1	東京学芸大学	126
2	東京大学	41
3	一橋大	29

総合順位

1	東京学芸大学	197
2	東京大学	135
3	一橋大	79

100m 決勝 (+1.4)

1	川上	東学大	12"69
2	吉田	東学大	13"06
3	小原	東大	13"30
4	高宮	お茶大	13"59
5	上原	一橋大	13"75
6	堀越	東大院	13"76

7	長谷川	外語大	13"96
8	小村	医歯大	14"25

100m 予選

1組 (-0.9)			
2	小原	東大	13"49
2組 (± 0.0)			
4	堀越	東大院	13"76

400m 決勝

1	塩入	東大	59"66
2	土田	東学大	59"95
3	高宮	お茶大	60"77
4	小松	外語大	62"31
5	深見	外語大	67"42
6	山縣	医歯大	69"06

800m 決勝

1	前野	東学大	2'15"03
2	目黒	東大	2'19"24
3	江達	東学大	2'20"52
4	小町谷	都立大	2'20"83
5	向田	東大	2'28"20
6	山内	都立大	2'38"99
7	羽田	医歯大	2'42"14
8	沢野	お茶大	2'45"88

800m 予選

1組			
3	向田	東大	2'38"45

3000m 決勝

1	西村	東学大	10'38"56
2	向田	東大	10'41"91
3	牧原	東学大	10'52"99
4	松岡	外語大	11'30"88
5	村上	東農大	11'53"16
6	桑名	お茶大	11'54"89
7	浅田	外語大	11'54"94
8	清水	東大	12'21"57

4 × 100mR 決勝

1	東学大	49"20
---	-----	-------

2	東大	52"66
(小原-塩入-本間-堀越)		
3	医歯大	55"56
4	一橋大	55"65
5	外語大	56"02
6	お茶大	56"37

走幅跳決勝

1	高坂	東学大	5m16(+1.2)
2	松下	東学大	5m15(+1.5)
3	小松	外語大	4m65(+2.1)
4	三上	一橋大	4m59(+1.0)
5	長谷川	外語大	4m49(+0.8)
6	松田	都立大	4m43(+0.3)
7	小原	東大	4m39(+2.2)
8	本間	東大	4m27(+2.1)

やり投

1	山田	東学大	38m70
2	松田	首都大	28m57
3	深見	東学大	26m45
4	本村	外語大	22m31
5	桑名	お茶大	22m10
6	高城	東学大	20m56
7	松本	お茶大	10m95

トラック順位

1	東京学芸大学	49
2	東京大学	32
3	外語大	20

フィールド順位

1	東京学芸大学	26
2	首都大	16
3	外語大	15
4	東京大学	7

総合順位

1	東京学芸大学	75
2	東京大学	39
3	外語大	35

3 2005年度部内5傑 2005.5.21現在

男子 100m

1	米田 武史 (4年)	10"80(+1.8)	5.14
2	瀧山 健 (3年)	11"09(+1.8)	4.23
3	藤本 元太 (2年)	11"24(+1.0)	3.21
4	田中 啓太 (2年)	11"44(+1.7)	5.21
5	相川 啓佑 (3年)	11"62(-1.6)	4.17

男子 200m

1	瀧山 健 (3年)	22"5(+0.3)	4.3
2	米田 武史 (4年)	22"69(-0.6)	5.3
3	今村 岳 (2年)	22"91(+1.0)	5.21
4	沖田 朋憲 (2年)	23"47(+0.9)	4.23

男子 400m

1	沖田 朋憲 (2年)	50"58	4.9
2	田中 佑貴 (4年)	51"41	5.21
3	今村 岳 (2年)	52"25	4.23
4	小澤 聡 (2年)	52"29	5.21

男子 800m

1	村井 昂志 (4年)	1'55"8	4.29
2	庄司 一郎 (4年)	1'57"6	4.29
3	新井 邦生 (3年)	1'59"2	4.2
4	割沢 高行 (3年)	1'59"94	4.9
5	橋本 淳 (3年)	2'03"5	4.29

男子 1500m

1	新井 邦生 (3年)	3'59"59	5.8
2	月崎 竜童 (2年)	4'07"34	5.21
3	石原 宏尚 (2年)	4'08"56	5.21
4	庄司 一郎 (4年)	4'13"97	4.9
5	斎藤 俊 (2年)	4'14"3	4.3

男子 5000m

1	中原 健二 (4年)	15'23"8	4.23
2	片岡 哲郎 (3年)	15'44"67	5.21
3	千島 悠司 (3年)	15'45"6	4.2
4	村田 拓哉 (4年)	15'47"5	4.2
5	稲垣 誠 (4年)	15'55"1	4.2

男子 110mH

1	尾崎 翔 (1年)	15"48(± 0.0)	5.21
2	田中 啓 (5年)	15"69(+0.7)	5.14
3	梅沢 啓 (3年)	15"53(± 0.0)	5.21

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (3年)	59"87	5.21
2	坂田 裕輔 (3年)	61"04	5.21
3	平林 学 (2年)	62"51	5.21
男子 3000mSC			
1	石原 宏尚 (2年)	9'37"50	4.30
2	岡田 良平 (3年)	9'50"0	4.29
3	月崎 竜童 (2年)	10'05"4	4.9
4	山崎 大 (3年)	10'31"08	4.17
男子 10000mW			
1	深尾 宙彦 (3年)	52'26"54	5.8
2	菅野 雄大 (2年)	52'31"99	5.1
男子 走幅跳			
1	竹内 昌男 (3年)	6m93	4.30
2	相川 啓佑 (3年)	6m78	5.8
3	武安 光太郎 (1年)	6m50	5.21
男子 三段跳			
1	佐野 太郎 (3年)	14m31	4.9
2	倉員 智瑛 (2年)	13m87	4.9
3	林 盛 (3年)	12m21	5.21
男子 走高跳			
1	持永 新 (3年)	1m70	4.9
男子 棒高跳			
1	大谷 真人 (1年)	3m90	5.21
2	持永 新 (3年)	3m70	4.23
男子 砲丸投			
1	小林 宗隆 (2年)	10m63	5.15
2	持永 新 (3年)	10m37	4.29
3	庄司 宇 (2年)	10m17	4.2
4	関原 孝之 (2年)	9m99	4.2
5	田上 遼 (3年)	9m65	5.21
男子 円盤投			
1	合田 隆彦 (3年)	35m72	5.8
2	関原 孝之 (2年)	30m48	4.3
3	庄司 宇 (2年)	30m32	4.9
4	持永 新 (3年)	28m82	4.9
5	小林 宗隆 (2年)	26m68	5.21
男子 やり投			
1	関原 孝之 (2年)	48m10	5.21
2	石井 仁也 (4年)	43m75	5.21
女子 100m			
1	小原 明恵 (3年)	13"30(+1.4)	5.21
2	堀越 彩香 (M2年)	13"76(± 0.0)	5.21

男子 走高跳

1	持永 新 (3年)	1m70	4.9
---	-----------	------	-----

女子 800m

1	目黒 亜由子 (M1年)	2'16"14	4.30
2	向田 恵 (3年)	2'26"14	5.21

女子 3000m

1	向田 恵 (3年)	10'46"91	5.21
2	清水 理紗 (3年)	12'21"57	5.21

女子 走幅跳

1	本間 諒子 (2年)	4m72	5.21
---	------------	------	------

女子 棒高跳

1	本間 諒子 (2年)	3m00	5.8
---	------------	------	-----

4 主務より

関東インカレ、国公立戦の応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々を卒業年順に敬称略でご紹介いたします。ご多忙のところ、誠にありがとうございました。

< 関東インカレ初日・5月8日(日) >

1982年卒	溝口勝
1988年卒	寺田秋夫
1993年卒	前田幸男
1999年卒	明石顕
1999年卒	工藤洋治
1999年卒	佐藤仁志
2001年卒	近藤航介
2002年卒	大堀徳人
2002年卒	永田章人
2003年卒	相原佑康
2003年卒	帰山祐佳
2003年卒	川添雄太
2003年卒	高梨幹生
2004年卒	岸田陽子
2004年卒	村口和人
2005年卒	藤田靖浩

< 関東インカレ二日目・5月13日(金) >

1957年卒	竜沢俊文
1958年卒	浦野穂昌
2005年卒	藤田靖浩

< 関東インカレ三日目・5月14日(土) >

1948年卒 山崎英也
 1957年卒 藤田宏明
 1958年卒 浦野穂昌
 1967年卒 林義之
 1982年卒 室城信之
 1983年卒 梅本道生
 1989年卒 寺田秋夫
 1999年卒 工藤洋治
 2003年卒 相原佑康
 2003年卒 池田哲
 2003年卒 橋本武
 2003年卒 肥後明佳
 2003年卒 宮本幸子
 2004年卒 岸田陽子
 2004年卒 山本晃祥
 2005年卒 原明
 2005年卒 式場健太
 2005年卒 濱田摩耶
 2005年卒 堀内壮太

< 関東インカレ四日目・5月15日(日) >

1983年卒 梅本道生
 1994年卒 工藤麻衣子
 1995年卒 難波聡
 1996年卒 大沢進

< 国公立戦・5月21日(土) >

1994年卒 工藤麻衣子
 2001年卒 岡野浩行
 2001年卒 普光真生
 2001年卒 新妻拓弥
 2005年卒 藤田靖浩

(卒業年順、敬称略)

文責：中原健二